

遠い昔、縄文時代、古代中津人は河口の巻き貝を拾い、遠浅の干潟で二枚貝や魚を捕ってくらしていたことが、貝塚などからわかっています。弥生時代には、稲作の傍ら、粘土質の泥をこねて小さなつぼを作り、野焼きして海に沈める飯蛸壺漁なども盛んに行われました。戦後の食糧難を支えたのもこの豊かな海でした。

干潟で捕れるアサリやハマグリで、多くの人が生命をつなぎ、海沿いの道は捨てられた貝殻で一面真っ白だったと聞きます。

春と秋の浜遠足、ザルを片手に夕飯のおかずを捕る人、風呂の焚き付けに松葉や流木を拾い集める子どもたちの姿…。遠い昔からほんの数十年前まで、中津の海と人は仲良くくらししてきました。ところが時代が豊かになるにつれ、人々の足は遠のき、いつの間にか海と浜は忘れられた存在になり、人気がなくゴミが捨てられた海岸は「行ってはいけない場所」になってしまったのです。

この干潟に目が向けられたのは、中津港が重要港湾に指定された1999年。「必要ないから埋めてしまえ」と言われた大新田の干潟に、おっかなびっくり足を踏み込み、小さなカブトガニを見つけました。地面近くしゃがみ込んで、周りを見渡すと、無数の生きものたちがうごめき、干潟は彼らの小さな声と生命であふれていました。

この驚きと感動から、私たち活動は始まりました。この時の感動は、今も私たちの活動の原動力となって、心に息づいています。私たちの祖先が大切につきあってきた身近な海や水辺の自然をきちんと見つめ直し、自分たちのくらす中津の海や水辺の未来を考えるため、私たち海辺にくらすものは、もっともっと海のことを知る必要があるのではないのでしょうか。

遠ざかってしまった「海と人の心の距離」を取り戻し、中津の海や水辺と人々のくらしをつなぎ直すために、私たちは活動を続けています。



会員募集・寄付のお願い

豊かな中津の海と水辺環境を、未来の子どもたちに守り伝えるため、会の活動に賛同し、ご支援いただく会員様を募集しています。

■カブトガニコース

・一般会員 年会費 1,500円

年4回発行の「ガタガタ通信」ならびに「行事のお知らせ」をお届けします。通常の会員様になります。

・正会員 年会費 1,500円

一般会員と同じサービスに加え NPO 法人の役員として活動に対する議決権を有する会員です。会の運営に直接関わりを持つ会員になります。

■ズグロカモメコース

・サポーター 一口 10,000円 特典付

会の活動に賛同しご支援していただける方。中津干潟の産物や生きものに関係したグッズなどをお届けします。

新規ご入会の方は、お名前・ご住所・お電話番号・E-mailなどを明記の上、下記まで郵便振込でお振り込みください。

口座番号 01760-134110
名義 NPO法人 水辺に遊ぶ会



「ひがたらぼ」は…
小さな干潟の博物館。
水辺に遊ぶ会の活動拠点であり中津干潟の保存、共感・教育、研究活動の中心施設です。



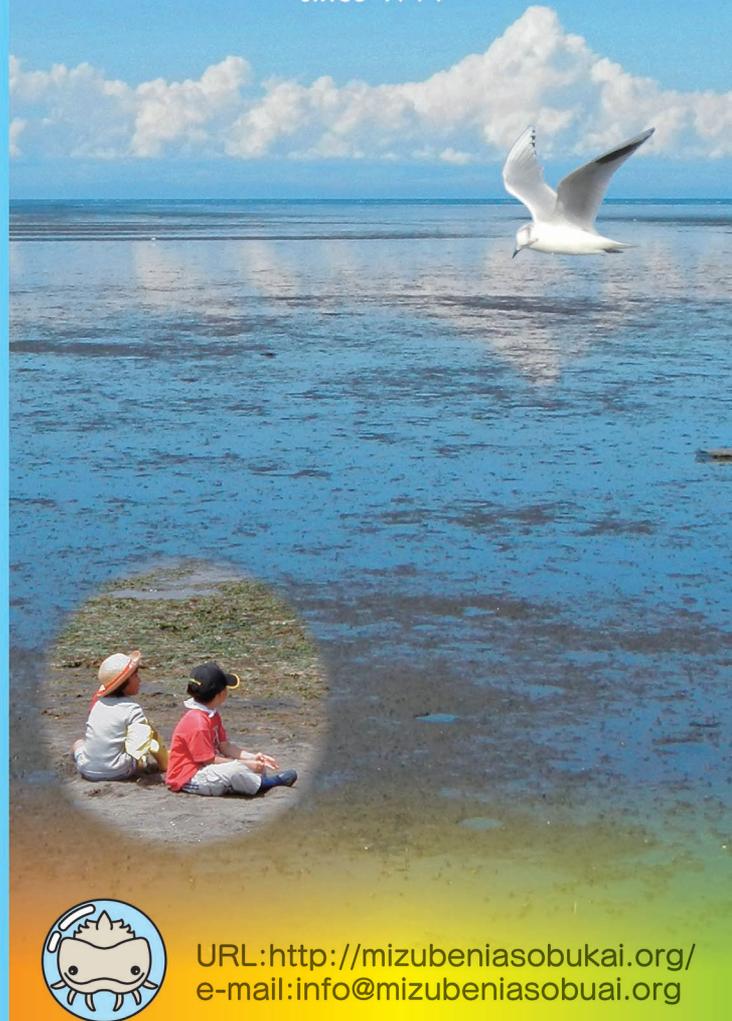
中津ネイチャーセンター
ひがたらぼ

住所：大分県中津市東浜1151-4
TEL・FAX：0979-77-4396
e-mail：info@mizubenasobuai.org
URL：http://mizubenasobukai.org

NPO法人 水辺に遊ぶ会

Nakatsu Waterfront Conservation Association

since 1999



URL: <http://mizubenasobukai.org/>
e-mail: info@mizubenasobuai.org

100年後も、生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟を…。

保存

conservation.

共感・教育

sympathy & education

研究

study

私たちが保全活動を行っている「中津干潟」は、九州の大分県北部地方にあります。ここには、カブトガニをはじめ日本の各地で姿を消しつつある生物たちの最後の楽園とも呼ぶべき豊かな干潟環境が残されています。世界的に干潟環境の重要性は認識されていますが、その真の姿についてはまだ本当には理解できていません。そのような中で最も重要なことは、これまで受け継いできたヒトと自然の関係を維持しつつ、これを保存していくことであると私たちは考えています。

人々と干潟の関係は半世紀ほど前まではとても強い結びつきを持っていました。化石燃料の普及や経済活動の進展に伴って人々の生活と干潟は次第にはなれてゆき、そこに息づく命と直接関わりを持たなくなってしまいました。私たちは、もう一度このつながりを取り戻したいと考えています。より多くの人々と干潟環境にくらす生物たちの姿を見つめなおし、その自然の素晴らしさを講演活動や様々な教育アクティビティをとおして共に楽しみながら理解を深めていきたいと考えています。

中津干潟の環境研究は、発展途上にあります。生態学などの環境科学だけでなく、土木工学や人文地理学、民俗学、考古学、服飾研究に至るまで実に多様な研究者によって調査研究活動がなされています。私たちは活動の拠点施設であるネイチャーセンター「ひがたらぼ」を中心に、これらの研究者達の活動を側面から支えると同時に、研究者同士の交流や学生による調査活動などの援助も行っています。また、一市民でもできる科学研究についても常に模索を続けています。

NPO Nakatsu Waterfront Conservation Association

NPO法人水辺に遊ぶ会